つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 482-0097
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

（祓い弓の儀を奉仕する工匠）

立柱祭（りっちゅうさい）と上棟祭

八月十七日、基礎・石工事を終えた社殿建設地において、総代が見守る中、建築の成功を祈念して、柱を立てる立柱祭が執り行われ、工匠が槌打ちの儀を奉仕した。

次いで九月五日、新社殿の棟木（むなぎ）を上げるに当たり、家屋の神と工匠の神を祀ってこれから先永く社殿に災いが無い事を祈念して上棟祭が執り行われた。

当日は、総代や氏子三〇〇人が見守る中、神職、伶人（楽人）（れいじん）、工匠（こうしょう）（大工）合わせて十九名の奉仕により、祭典が執行され、上棟の儀では「祓い弓の儀」、「博士杭（はかせくい）打ちの儀」、「曳綱（ひきづな）の儀」、「槌打（つちうち）の儀」、「万歳三唱」、「散餅（さんぺい）・散銭（さんせん）の儀」が行われた。

曳綱の儀では、早島幼稚園、同保育園の園児一〇〇名が棟木に付けられた紅白の綱を曳いて中央の棟まで棟木を上げた。

祭典終了後、境内に集まった氏子に仮設舞台から建設委員や工匠が奉祝の餅まきを行った。

七月十六日に基礎工事、八月十二日に石工事を終えた敷地に建築用材が次々に運び込まれ、八月十七日には柱を立てる立柱祭を行い、九月五日には棟木を上げてめでたく上棟祭を執行した。

翌日からは、長期に渡る工事のために覆屋（おおいや）が組まれ、年末にかけて隅木（すみぎ）、破風（はふう）、向拝（こうはい）、屋根工事等が行われる。

新社殿前に於いて執行された上棟祭

社殿建設の様子

檜の柱（6寸）に組み込まれる胴差し

立柱祭執行（8月17日）

丸柱に組み込まれる虹梁（こうりょう）

立てられた柱とその上に乗る船肘木（ふなひじき）

参拝の氏子に奉祝の餅撒きが行われた境内

曳綱の儀で棟木を曳く園児

神道Q&A

【質問】

鶴崎神社は早島町にあるのに何故、豊洲や中帯江の倉敷市に住んでいる人も氏子になるのでしょうか。

【答え】

氏子とは、ある地域社会住民として、その土地の神社に対して宗教生活上の帰属関係を持つ人を指し、その神社を氏神と呼びます。

氏子と氏神の関係は日本における敬神崇祖観念と郷土意識との結合によって、神社祭祀の上に生じた自生的な宗教情操がその基調をなし、地域社会の共同体祭祀を支える制度的習俗をなしています。

当社の氏子区域である早島、豊洲、中帯江は安土桃山時代、岡山城主宇喜多秀家により干潟の開墾が行われ、江戸時代に入ると戸川氏が庭瀬藩主となり、やがて撫川、早島、帯江に領地が分割され、干拓や新田開墾により、次々と村が誕生しました。

特に、早島知行所（ちぎょうしょ）と帯江知行所とは協力して新田開発にあたったために、早島領と帯江領とは複雑に交わり、両領の住民は当時帯江領であった鶴崎神社を総氏神として氏子に加わって行ったと思われます。

寛政～慶応にかけての氏子区域は次のようになっていました。

早島領

東分（塩津・無津・市場）、西分（塩地・頓行・長津）、金弾（金田）、中帯江、西田、前潟、高沼（帯高）、高須賀。

帯江領

五日市、亀山、高沼（早高・帯高）、宮崎、前潟。

（前潟村及び高沼村は両領にまたがっていました。）

また、明治四年、太政官布告の「郷社定則」には、同年制定の戸籍法に基づく戸籍区（一区当たり一千戸）毎に「郷社」（神社の社格で県社の下に位置する。）を置き区内全住民を氏子とするよう指示が出されました。

このような歴史から、倉敷市の五日市、中帯江、西田、亀山、早高、高須賀、帯高は当社の氏子となっています。

七五三祈祷

七五三は子供の無事な発育を喜び、なお一層の成長を願って氏神さまに詣でる行事です。

古来は、男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行ったことに由来します。

ご祈祷の方には御守り、飴、その他を授与致します。

記

◆十一月十五日（土）・十六日（日）の両日は随時奉仕致しますので、祈祷される方の予約はいりません。

◆その他の日に祈祷を希望される方は前もってご予約下さい。

秋祭りの予定

10月18日午前10時～

秋季大祭（供膳祭）

10月19日午前9時～

神幸祭

午前8時　執行の花火

午前9時　出発の花火

午後2時半　還御

鬼の数も増えましたので沿道で奉拝下さい。

（雨天中止）

社殿の棟札

当社の社殿は、明治二十八年五月十九日・二十日に上棟祭を行った事が棟札に記されている。

当時建設された建物は、幣殿二棟、拝殿、神饌殿、社務所でこの再建により双殿造（そうでんづくり）りになったようである。

棟札の裏面には、主だった氏名が次のように記されている。

都宇窪屋（つうくぼや）郡長　武知高吉
早島村長　納所勇　豊洲村長　木村卓爾
江島村長　平田義策　帯江村長　尾﨑良齋
事務総括兼出納　納所勇
改築委員　河合永三　藤原次作
大工棟梁　松田友吉直道

棟札は、建造物の記録を後世に残すという意味で、貴重な資料となる。

明治二十八年の棟札（表面）

明治二十八年の棟札（裏面）

平成二十年の棟札（表面）

平成二十年の棟札（裏面）

銅板寄進のお願い

上棟祭も無事終了し、今秋から社殿建設工事が本格化されます。

当社では、新しい社殿に葺く銅板のご寄附をお願い致しております。

銅板の大きさ
幅十八センチ × 長さ四十五センチ
銅板にはお名前等を記入下さい。

一枚　二、〇〇〇円

神社社務所にて随時受付致しております。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒・その他
◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祭事暦

十月十八日（土）［午前十時］
　秋季大祭【供膳祭】（露店あり）
十月十九日（日）［午前九時］
　神幸祭
十一月中　七五三祈祷
十一月二十三日（日）［午後二時］
　新穀感謝祭
毎月一日（午前九時）月次祭
※月次祭にお詣りの方は、拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列して下さい。